

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0291000016
法人名	社会福祉法人 三笠苑
事業所名	グループホームサンライフ碓ヶ関
所在地	青森県平川市碓ヶ関鯨森90-1 (電話)0172-49-5070
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年2月6日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 14.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	理美容代 2,000 円/回他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	黎明郷 大鰐病院 畑山医院 ESTクリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然に恵まれ、敷地が広く、夏には農園や花壇、色々な行事など、多目的に使うことができ、併設された児童館との交流にも役立っている。

建物内は木目を基調とし、とても明るく家庭的な雰囲気、代表者や管理者の指導が雰囲気作りに徹底されていることが伺えた。

また、職員の教育に力を入れており、学習会等を定期的に行っているほか、スキルアップにも積極的である。

管理者は相談受付の段階から利用者の視点に立った支援を行っている。また、入居前にホーム見学を行うほか、入居者や家族等と十分に話し合い、安心してサービスを開始できるよう調整している。

入居時にこれまでの受療状況を把握している。原則、ホームの協力病院の受診を働きかけてはいるが、本人や家族の希望するかかりつけ医に受診出来る体制が整っている。また、週1回の訪問看護時や協力医療機関に随時相談等を行うことができる。受診状況等は家族等に報告しており、情報の共有が図られている。

職員に栄養士があり、栄養バランスに配慮した献立になっている。1日の摂取カロリーを1400～1500カロリーと把握しているほか、1日の水分摂取量も1,000ccと概ね把握しており、必要に応じて記録している。利用者の栄養摂取状況等に付いての助言や指導を、法人管理栄養士から得ている。

【特に改善が求められる点】

職員の力量や経験に合わせた研修を、段階的に受けることが出来るよう年間研修計画を作成することに期待したい。

他グループホームとの職員間の交流や情報交換がスムーズに出来るシステムを構築することに期待したい。

重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にし、早い段階から利用者や家族、医療機関を交えて話し合いを行い、意思統一することに期待したい。

やむを得ず施設する場合に備え、理由を明確にし、家族から同意を得る体制を整えることに期待したい。

災害発生時に備え、食料品だけでなく飲料水や寒さをしのげる毛布なども準備することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人の代表者や管理者は全体会議や学習会を通じて、評価を行うことの意義を全職員に周知しているほか、外部評価結果を報告し、より良いケアを行えるよう改善策を検討し、実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者だけでなく全職員の意見を盛り込んで作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバー出席率はほぼ100%で、出席者は会議の意義や役割を理解し、今後の取組みと質の向上に向けて積極的に意見交換している。</p> <p>また、会議では自己評価や外部評価結果を基に改善策等を検討し、サービスの質の向上に繋げている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族が面会に来た時や行事の際に、利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況等について報告している。また金銭観状況を出納帳を基に報告し、確認を得ている。</p> <p>苦情箱を設置したり、家族が面会に来た時に出来るだけ職員から話し掛けるなど、気軽に話せる雰囲気作りを努めている。また、内部・外部苦情受付窓口を契約書に明示しているほか、各フロアの掲示板に掲示し、周知している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>行政や地域住民とのコミュニケーションを図っており、気軽立ち寄れるよう働きかけている。また、併設の児童館を町会の会議場として提供するなど、地域との関わり合いを通して交流を行っている。</p> <p>併設児童館を利用している子供達と交流したり、行事の際にボランティアを受け入れるなど、地域への認知症普及活動を行っており、外部の方がホームを訪れる際には利用者のプライバシーに配慮するように努めている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>「地域との連携を図り、笑顔と思いやりで心に寄り添うケアの提供、明るく家庭的な環境作り、目配り、気配り、心配り行き届いたサービスをめざします。」という理念をもとに、毎朝申し送り時に職員全員が唱和し、意識を高めている。</p> <p>契約時に事業所の理念やケア方針を判りやすく説明し、利用者や家族から意見等を引き出すよう働きかけている。また、契約改定時や退去の際の十分に説明を行い同意を得ているほか、退去の際は退去先の情報提供を行うなど、利用者や家族に不安を生じさせないように支援している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>管理者は相談受付の段階から利用者の視点に立った支援を行っている。また、入居前にホーム見学を行うほか、入居者や家族等と十分に話し合い、安心してサービスを開始できるよう調整している。</p> <p>入居者と話す場合、馴染みの言葉や身振り手振りでコミュニケーションを取っており、話しやすい雰囲気を保ち、喜怒哀楽を共にし理解するように努めている。また、食事の準備、後片付け、掃除、園芸など、利用者の個性に合わせた得意分野を支援している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者の希望や要望に常に耳を傾け、担当職員だけで対応するのではなく、全職員の気づきや意見を取り入れるなど、全体を見渡しながらアセスメントを行っている。</p> <p>入居時にこれまでの受療状況を把握している。原則、ホームの協力病院の受診を働きかけてはいるが、本人や家族の希望するかかりつけ医に受診出来る体制が整っている。また、週1回の訪問看護時や協力医療機関に随時相談等を行うことができる。受診状況等は家族等に報告しており、情報の共有が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>人生の先輩であるということを念頭において、個人のプライバシーや言葉遣い・態度といった行動に特に注意して日々のケアを提供している。</p> <p>入居者のペースに合わせた利用者優先を心がけ、急がせず、ゆとりのある柔軟な対応を行っている。また、希望に添えない際も理由を伝え納得してもらい時間の変更を行うなどの対応をしている。</p> <p>職員に栄養士がおり、栄養バランスに配慮した献立になっている。1日の摂取カロリーや水分摂取量を概ね把握しており、必要に応じて記録している。利用者の栄養摂取状況等に付いての助言や指導を、法人管理栄養士から得ている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、地域との連携を図るため、代表や職員全員でホーム独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送りの時に職員全員で唱和して、言葉だけでなく常に目配り、気配り、心配りを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	役場に広報紙を配布したり、夏祭りのポスターを掲示するなど、行政や地域住民とのコミュニケーションを図っており、気軽立ち寄れるよう働きかけている。また、併設している児童館を町会の会議場所として提供するなど、地域との関わり合いを通して交流を行っている。併設児童館を利用している子供達と交流したり、行事の際にボランティアを受け入れるなど、地域への認知症普及活動を行っており、外部の方がホームを訪れる際には利用者のプライバシーに配慮するように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人の代表者や管理者は全体会議や学習会を通じて、評価を行うことの意義を全職員に周知しているほか、外部評価結果を報告し、より良いケアを行えるよう改善策を検討し、実施している。自己評価を作成する際は管理者だけでなく、全職員で取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバー出席率はほぼ100%で、出席者は会議の意義や役割を理解し、今後の取り組みと質の向上に向けて積極的に意見交換している。また、会議では自己評価や外部評価結果を基に改善策等を検討し、サービスの質の向上に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市にホームの広報紙を配布しているほか、運営推進会議のメンバーとして参加して貰い、自己評価、外部評価結果等を報告している。また、業務上の問題等が発生した際には随時報告しており、積極的に行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月1回法人本部で行う学習会に参加し、受講後ホームで伝達講習を行うことで、職員全員が理解できるよう取り組んでおり、制度の概要を概ね理解している。また、資料を準備し、必要に応じて情報提供等の支援を行えるようにしている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や月1回法人本部で学習会に参加し、伝達研修を行うことで、全職員が高齢者虐待防止法について理解を深めている。また、職員は日常ケアの場面を観察し、虐待防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の理念やケア方針を分かりやすく説明し、利用者や家族から意見等を引き出すよう働きかけている。また、契約改定時や退去の際の十分に説明を行い同意を得ているほか、退去の際は退去先の情報提供を行うなど、利用者や家族に不安を生じさせないように支援している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が面会に来た時や行事の際に、利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況等について報告している。また金銭管理状況を出納帳を基に報告し、確認を得ている。サービス提供体制の変化については随時報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり、家族が面会に来た時に出来るだけ職員から話し掛けるなど、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。また、内部・外部苦情受付窓口を契約書に明示しているほか、各フロアの掲示板に掲示し、周知している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、職員の異動等による利用者への影響を理解しており、異動を行う際は利用者や家族に十分説明している。また新旧の職員間で詳細な引き継ぎを行い、利用者への負担を最小限とするよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	館長や各フロアの管理者が職員の業務に関する悩み等に助言を行っている。また、職員の能力や質の向上、人間関係に関することなどを題材とした法人の学習会が毎月あり、館長や管理者は職員に周知し参加させている。受講後は報告書を作成するほか、伝達研修を行い全職員に周知している。しかし、職員の力量や経験を考慮し、段階的に研修を受けることが出来るよう年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員の力量や経験に合わせた研修を、段階的に受けることが出来るよう年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームとの情報交換等の交流を行っているほか、地区のグループホーム協会に加入し、連携の機会が確保されている。しかし、職員間の交流を行い、職員育成に繋げるまでには至っていない。	○	他グループホームとの職員間の交流や情報交換がスムーズに出来るシステムを構築することに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は相談受付の段階から利用者の視点に立った支援を行っている。また、入居前にホーム見学を行うほか、入居者や家族等と十分に話し合い、安心してサービスを開始できるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と話す場合、馴染みの言葉や身振り手振りでコミュニケーションを取っており、話しやすい雰囲気を保ち、喜怒哀楽を共にし理解するように努めている。また、食事の準備、後片付け、掃除、園芸など、利用者の個性に合わせた得意分野を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや意向等の把握に努めており、出来るだけ入居者の要望や意向にそったケアを心掛けている。必要に応じて、家族や関係者からも情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来るだけ入居者の要望や意向にそったケアを心掛け、職員間での気づきや利用者が出来る事に取り組むことに重点を置いている。また、他の職員や管理者に常に相談し、それぞれの考えを集約して介護計画を作成している。必要に応じて家族等と相談し、利用者本位の個別具体的なものを作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月毎に定期的な見直しを行っている。また、利用者の状態や意向の変化時には随時見直しを行っている。見直しの際は、再アセスメントを行い状況を把握しながら、管理者・家族等と連携して行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や本人の要望に常に応えられるよう窓口は広く、さらに柔軟に対応出来るような体制が確立されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にこれまでの受療状況を把握している。原則、ホームの協力病院の受診を働きかけてはいるが、本人や家族の希望するかかりつけ医に受診出来る体制が整っている。また、週1回の訪問看護時や協力医療機関に随時相談等を行うことができる。受診状況等は家族等に報告しており、情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、同法人の施設や病院を紹介したり、急変時の対応について利用者や家族に説明を行っているが、利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にするまでには至っていない。	○	重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にし、早い段階から利用者や家族、医療機関を交えて話し合いを行い、意思統一することに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩であるということを念頭に接しており、言葉遣い・プライバシーなど特に配慮している。また、職員は学習会等を通して個人情報保護法について概ね理解しており、利用者の個人情報等は慎重に扱い、利用者や訪問者の目の付かない場所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせた利用者優先を心がけ、急がせず、ゆとりのある柔軟な対応を行っている。また、希望に添えない際も理由を伝え納得してもらい時間の変更を行うなどの対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者のリクエストや苦手な物に配慮されているほか、食事の準備・後片付け等は入居者が積極的に取り組んでいる。また、職員は可能な限り利用者と一緒に食事を摂っており、さり気なく食事のサポートを行いながら、楽しい食事時間となるよう支援している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、その日に入浴できなかった場合は他の日に入浴出来るように配慮したり、足浴やシャワーなどを促すなどしている。職員は入浴に対する利用者の羞恥心等を理解しており、適切な支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に利用者や家族から生活歴や今後行ってみたいことなどを聞き、把握している。また、散歩や掃除、調理、ゴミ出しなど、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や気温に応じて、日常的に散歩や買い物に出れる機会が確保されている。また、外出先は利用者の希望を取り入れ、利用者のその日の状況に合わせた移動方法や移動距離としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束委員会において、マニュアルが作成されており、身体拘束を行わないケアを実践している。また、マニュアルを全職員に配布し、やむを得ず身体拘束を行う場合の記録を残す体制等について周知徹底を図っているほか、家族への同意を得る体制を整えている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等は施錠していない。外出傾向のある利用者に対しては見守りや付き添いなどの対応を行っている。無断外出時に備え、地区の交番と連携し、定時巡回コースとしてもらうのなど、協力体制が整っている。しかし、やむを得ず施錠する場合に、理由を明確にし、家族から同意を得る体制が整っていない。	○	やむを得ず施錠する場合に備え、理由を明確にし、家族から同意を得る体制を整えることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。そのうち1回は夜間想定で行われ、消防署等と連携を図り、協力が得られる体制が整っている。災害発生時に備え、食料品を備蓄しているが飲料水・毛布などを準備するまでには至っていない。	○	災害発生時に備え、食料品だけでなく飲料水や寒さをしのげる毛布なども準備することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士がおり、栄養バランスに配慮した献立になっている。1日の摂取カロリーを1400～1500カロリーと把握しているほか、1日の水分摂取量も1,000ccと概ね把握しており、必要に応じて記録している。利用者の栄養摂取状況等についての助言や指導を、法人管理栄養士から得ている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人で作成した感染症に関するマニュアルがあり、勉強会等により定期的に学習の機会を設けている。また、同一法人より最新の情報を収集し、広報誌に掲載したり、ホーム内に掲示するなど周知に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は余裕のある家庭的な作りになっており、ゆったりとした気持ちになるよう配慮している。リビングの室温や明るさ、テレビの音量などは適切で、居心地の良い雰囲気が出ている。また、ホーム内に畑があり、季節ごとの野菜を植えるなど、四季を感じるできるよう取り組んでいる。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には位牌や写真、テレビや冷蔵庫など、馴染みの物を持ちこんでおり、一人ひとりに合った居室作りを職員と共に行っている。		

※ は、重点項目。